

(仮称)世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ)
パブリックコメントの結果について

1 実施概要

(1) 期間

平成 29 年 2 月 28 日(火)から平成 29 年 3 月 22 日(水)

(2) 周知方法

区のおしらせ特集号による周知(平成 29 年 2 月 28 日号)

区のホームページ

閲覧場所(区政情報センター、まちづくりセンター、図書館等)での資料配架

(3) 受付件数

意見提出人数 51 人

(はがき 44 人、ホームページ 7 人)

合計意見件数 61 件

項目	件数
ビジョンについて	24 件
保育・教育について	12 件
推進体制について	2 件
幼児教育センターについて	1 件
保育施設について	16 件
保育人材について	3 件
その他	3 件

2 結果公表

6 月中旬より区のホームページ等で公表する。

「(仮称)世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ)」に対するパブリックコメントと区民意見に対する区の考え方

整理番号	分類	中分類	意見の概要	件数	区の考え方
1	ビジョンについて	内容全体	ビジョン全体に対する前向きな意見 ・区の考え方に賛成 ・ビジョンを掲げることに賛成している	2	世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン(以下「ビジョン」と言う)を策定することで、世田谷区が乳幼児期に大切にすることの育ちや育む力を明確にし、保護者や幼稚園・保育所等、小学校、地域など区全体が共有し、連携をしながら乳幼児期における教育・保育に取り組むことをめざしています。
2	ビジョンについて	育む力	試行錯誤という言葉づかいは不適當だ。趣旨が、試行・忍耐・経験・実行力ということであれば、「錯誤」は不要なのではないか。	1	いただいたご意見等を踏まえ、「体験と意欲」という表現に修正いたします。
3	ビジョンについて	基本的な視点1	乳幼児期の教育・保育の視点として「ことばの力」の育成と「外遊び」の推進が組み込まれているのは、大変良いことだと思う。	2	世田谷区では、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーとして外遊びや自然体験ができるプレーパークを区内4か所に設置するなど、外遊びの環境整備に取り組んできました。また、世田谷区教育委員会では、子どもたちの豊かな人間性と知力と、その基盤である「ことばの力」の育成をめざし、考える力、表現する力を高めるために、全教科での言語活動の充実や、教科「日本語」を実施しています。このような世田谷区の取組みを踏まえ、世田谷区の特徴を活かした乳幼児期における教育・保育の推進をめざしてまいります。
4	ビジョンについて	基本的な視点1	親に向けて外遊びの利点を知る機会をつくってもらいたい。受験の低年齢化や早期教育で公園に行けなかったり、外遊びに不向きな格好をさせられていたりするケースがある。保育所の拡充だけでなく、地域の外遊びのコミュニティをつくったり、外遊びの利点を周知するようにしてもらいたい。外遊びに抵抗のある大人でも積極的になれるようなPRをするなど工夫し、親子のストレスや悩みが軽くなるようにしてもらいたい。	1	世田谷区のような都市部においては、意識的に遊びの機会やいろいろな体験ができる機会や場をつくり、子どもが自主的・主体的な活動をとおり、生きる力を育むことができる環境を整えることが大切だと考えています。 世田谷区は、外遊びや自然体験ができるプレーパークを区内4か所に設置するなど、「外遊び」の環境整備に取り組んできたところです。 今後も、これまで取り組んできた「外遊び」を一層充実するなど、区の特徴を活かした取組みを進めてまいります。
5	ビジョンについて	基本的な視点1	歩道区域を増やすことで安心して下校、外遊び、地域の連携を密にできるようにしてほしい。昆虫園を増やしたり、木の実のなる植物を植えたり、木を増やしたり、自然にやさしくしてほしいと思います。	1	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。

「(仮称)世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ)」に対するパブリックコメントと区民意見に対する区の考え方

整理番号	分類	中分類	意見の概要	件数	区の考え方
6	ビジョンについて	基本的な視点1	早期教育で得られる学力などの認知能力では、社会を生き抜くことはできないし、あえて教え込まずとも子どもは、遊びや生活の中からいろんなことを学び、できるようになっていく。今回示されたビジョンに外遊びを推進するという記述があったことを嬉しく思う。社会の変化の中で外遊びをすることが難しくなっているが、ぜひ外遊びを推進していってほしいと思う。	1	世田谷区では、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーとして外遊びや自然体験ができるプレーパークを区内4か所に設置するなど、外遊びの環境整備に取り組んできました。このような世田谷区の取組みを踏まえ、世田谷区の特徴を活かした乳幼児期における教育・保育の推進をめざしてまいります。
7	ビジョンについて	基本的な視点1	「世田谷3快プログラム～快眠・快食・快運動～」の取組みに興味を持っている。現代の子どものはしゃがんだり、片足立ちができないなどの他にも、外反母趾が増えているなど身体的な変化が起こっている。そこで、「世田谷3快プログラム」の取組みとして幼稚園や学校で浮き指チェック、ロコモティブシンドロームチェックなどを取り入れてはどうかと思う。	1	「世田谷3快プログラム」では、実践モデル校・園を指定し「体力向上」「健康教育」「地域との連携」「幼児教育」の各分野で様々な実践に取り組んできました。幼児教育の取組の1つとして、実践モデル園において、幼児のフットルック(足裏バランス)測定を行い、取組の成果を実践報告会などでも報告しています。 また、ロコモチェックについては、学校の健康診断でも一部取り入れられています。今後は、「世田谷3快プログラム」の実践モデル校・園の取組の成果等を区立小・中学校、区立幼稚園へ普及・浸透させていきたいと考えています。
8	ビジョンについて	基本的な視点2	基本的な視点2のなかで、自宅でどのようなケアが必要かを保護者にアドバイスしてもらえると助かる。	1	未就学児の子育て家庭においては、3世代家庭が少なく、核家族化が進んでいます。地域の絆の希薄化や、家庭の養育力の低下が指摘される中、家庭教育への支援や、子育て家庭を支える取組みが必要と考えています。いただいたご意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。
9	ビジョンについて	基本的な視点2	基本的な視点2にある、配慮が必要な乳幼児に対する対応の充実については、一般的な幼稚園・保育園では対応が難しいこともある。連携してアドバイスしてほしい。	1	現在、配慮を要する子どもについて、発達障害相談・療育センター等関係機関が、区内幼稚園・保育所等を巡回しの指導・助言を行っています。今後も、配慮を必要とする子どもが安心して幼稚園・保育所等での生活を送ることができるよう、関係機関との連携など具体的な取組みについて検討いたします。

「(仮称)世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ)」に対するパブリックコメントと区民意見に対する区の考え方

整理番号	分類	中分類	意見の概要	件数	区の考え方
10	ビジョンについて	基本的な視点2	障害のある子を区別するのではなく、幼児期から「いろんな子」と交流して、一緒に育って行って「いろんな子」が居ることが普通という感覚やおもいやりの感覚を育ててほしい。	1	現在、せたがやノーマライゼーションプランに基づき、障害のある子どもとない子どもが、互いを理解し合い、ふれあえるよう取り組んでおります。本ビジョンにおいても、世田谷区の子どもが乳幼児期に「自立と協同」「表現と共感」「健やかな心と体」「体験と意欲」「関心と探求」を育むことを通して、子どもたちが人を思いやり、心豊かにのびのびと生きる力を身につけていくことを目標にまいります。
11	ビジョンについて	基本的な視点4	待機児童解決に向けて保育園を増やしているが、保育園ごとの保育の質の差を少なくするようにすることが大切だと思う。保育の質の差が大きくなりすぎないように区立保育園をはじめとした各保育園の交流ネットワーク作りを行うべきだと思う。	1	世田谷区子ども計画において「保育の質を支える仕組みの構築」のため「保育施設間ネットワークの強化」を図ることとしており、現在、区内5地域において保育ネットワークが展開され、様々な保育施設の連携が行われています。また、区はノーマライゼーションの考え方から、障害の有無に関わらず子どもの保育を実施しています。
12	ビジョンについて	基本的な視点5	基本的な視点5「家庭・地域の連携」に、住民がその地域の乳幼児を社会で育成すべき人的資産として大切に思う気持ちを醸成することを加えてほしい。	1	いただいたご意見を踏まえ、「第3章 世田谷区がめざす乳幼児期における教育・保育」や「第4章 取組みの方向性」において、「地域で子どもを育てる」という視点で文章を調整させていただきます。
13	ビジョンについて	貧困への対応	ビジョンをつくり、推進されることはよいことだが、貧困家庭が置き去りにされていないか懸念される。	1	子どもの貧困対策は、子どもの将来が生まれた育った環境によって左右されることがないよう、国の施策とも連動しながら総合的に取り組む必要があります。現在、各所管において子どもの貧困対策に係る様々な施策を実施しており、庁内の会議体でも検討を進めているところです。今後は、平成32年度からの子ども計画後期計画の策定に向けて、外部有識者のご意見もいただきながら、実態を把握した上で実効性のある対策を検討してまいります。
14	ビジョンについて	推進体制	ビジョンを推進するための人材を確保する必要がある。このままでは現職の人たちが疲弊してしまう。推進するための具体的な仕組みを現実的に検討してもらいたい。	1	世田谷区では、「子どもと向き合う世田谷の教育の推進」等4つの目標を掲げ、教職員の研究・研修や学校支援等6つの機能を持つ、新たな教育センターの整備に向けた検討を進めています。このセンターの機能の大きな柱として、乳幼児教育支援センター機能を設け、世田谷区における乳幼児期における教育・保育の推進拠点とします。具体的な仕組み、推進体制については、教育委員会と区長部局の子ども・若者部等とが連携し、検討してまいります。
15	ビジョンについて	推進体制	「ビジョンに示されている視点は今までになかった新しいものなのか」、「新しい組織で取り組むのか」、「既存の担当課が担当することではダメなのか」、「必要な予算・人的な措置を取れば対応できるのではないか」といった疑問がある。	1	世田谷区内の公私立幼稚園・保育所等では、それぞれが建学の精神や保育方針に基づいて、世田谷区の乳幼児期における教育・保育を支えておりました。一方で、世田谷区が乳幼児期に育みたい力など乳幼児期の教育・保育のあり方を明確にし、区全体で乳幼児期の教育・保育の充実に取り組むことが必要との認識から、横断的な検討がなされていなかった、という課題認識から、このたび、ビジョンの策定に向け検討を進めてきたところです。ビジョンに基づく施策の推進にあたっては、教育委員会と区長部局の子ども・若者部等が連携し、いただいたご意見も踏まえながら、効率的に取り組むを進めてまいります。

「(仮称)世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ)」に対するパブリックコメントと区民意見に対する区の考え方

整理番号	分類	中分類	意見の概要	件数	区の考え方
16	ビジョンについて	推進体制	保護者を含めた幼児教育にかかわるすべての大人が相談できる環境が大切だと思う。	1	子どもたちが、人を思いやり、心豊かにのびのびと生きる力を身につけていくためには、家庭教育への支援の充実や、保育者等の資質及び専門性の向上等、様々な取組みが必要だと考えています。 33年度開設を予定している(仮称)世田谷区教育総合センターでは、幼児教育センター機能を整備してまいります。そこでは、公私立幼稚園・保育所等の合同研修や情報共有の機会を提供していくことを考えております。また、乳幼児教育・保育に関する情報の発信や家庭教育に関する講座の実施など、乳幼児とその保護者が気軽に立ち寄っていただける施設づくりを検討しております。
17	ビジョンについて	待機児童について	ビジョンで待機児童解消が目的であると示すべき。	1	子どもを取り巻く環境の変化や世田谷区における乳幼児期の教育・保育の状況等を踏まえ、将来の子どもの生きる社会を展望し、乳幼児期における教育・保育を一層充実していくために、本ビジョンを策定することとしています。 世田谷区では、子ども・子育て支援法に基づく「子ども・子育て支援事業計画」を「子ども計画(第2期)」に内包するかたちで策定し、平成27～31年度の幼児教育・保育、子ども・子育て支援事業の需要量見込みと、供給体制の確保の内容及び実施時期を定め、保育定員の拡充を計画的に進めています。平成29年3月には、新たな人口推計に基づき計画数値を上方修正した「子ども・子育て支援事業計画調整計画」を策定したところであり、待機児童の多い低年齢児に特化した保育施設・事業の整備をこれまで以上に進めていくなど様々な手法により、保育待機児童解消に向けて全力で取り組んでまいります。
18	ビジョンについて	区民との連携	「ビジョンの中間取りまとめ」は、これまでの教育方針と大きな違いが見られず、具体的なことは示されていない。子どもの言葉の乱れや、いじめの問題、心のケアなどについて区民の力を借りるなど、具体的な案を提示し、呼びかけてはどうか。協力できることは協力したい。	1	ビジョンを策定後、平成30年度からの第2次教育ビジョン・第2期行動計画の中で具体的な取組みを検討するとともに、子ども計画等との整合を図ってまいります。いただいたご意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。
19	ビジョンについて	地域での子育て	世田谷区内には、35年前から子育て世代が仲間をつくって自主保育や育児サークルをつくり、区からも活動助成金などの様々な支援をいただいている。幼児期は家庭が中心となり、育児力を高める時期である。また、幼児期の子育ては多様であることが大事であるので、多様な自主保育や育児サークルが育つようなビジョンをつくっていただきたい。	1	子ども計画(第2期)では、区民の自主的な活動を支え、子育て支援活動団体等の交流や学習の機会を設けるなどの取組みを進めながら、地域の子育て力の向上を目指すこととしています。今後も、それぞれの家庭のニーズに合わせた多様な子どもの育ちを、様々な取組みで支えてまいります。

「(仮称)世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ)」に対するパブリックコメントと区民意見に対する区の考え方

整理番号	分類	中分類	意見の概要	件数	区の考え方
20	ビジョンについて	その他	クレイトン・クリスランセン氏の著書「教育×破壊的イノベーション」では、学校が生徒に自発的動機付けを与えるかたちで学ぶことができるのか、日本の教育をどのように変えることができるのかということが理論的に書かれており、示唆をもたらしてくれる。この著書を参考にしてビジョンを再考してはどうか。	1	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
21	ビジョンについて	その他	世田谷9年教育として実施している教科日本語などでは、現在の小中学生が身につけるべき力がつくとはいえない。もし、結果が出ているならば結果を示してほしい。また、日本語の教育よりも読書活動や表現活動に力を入れてほしい。世田谷9年教育の見直しをしてからこそ、学校教育の土台となる幼児教育・保育推進ビジョンの策定に取り掛かるべきだ。	1	区では、学習指導要領の改訂に対応するため、今後、世田谷9年教育の柱である「世田谷区教育要領」の見直しに取り組むことを予定しています。また、教科「日本語」につきましては、これまでの取組の検証を踏まえ、学習指導要領の改訂に向けて、より充実した内容とするための検討を進めていきたいと考えています。また、学校図書館の運営体制の改善を引き続き進め、授業への活用や児童・生徒の読書活動を支援していきます。幼児教育・保育推進ビジョンの策定に向けては、これらの様々な取組みも踏まえながら、検討を進めていきます。
22	ビジョンについて	その他	今回のビジョンに新BOP学童クラブの記述がないことが気になる。世田谷区では待機児童解消に向けて保育園を増やしているのので、保育園に通っていた子どもたちが学童クラブにそのままスライドしていくことが予想される。また、新BOP学童クラブの登録者数は年々増加しており、今後も増加していくことが予想される。学校と家庭だけではなく放課後の過ごし方も子どもたちの育ちには重要なので、新BOP学童クラブと保育園、幼稚園、小学校等との連携を一層図っていくべきだと思う。そのため、新BOPについてビジョンでも取り上げてほしい。	1	本ビジョンは、第2次世田谷区教育ビジョンと世田谷区子ども計画(第2期)の内容を踏まえ、世田谷区がめざす乳幼児期における教育・保育のあり方を示す、という位置づけで検討を進めてまいりました。いただいたご意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。
23	保育・教育について	地域での子育て	幼少期の教育は一生を左右するほど大切なことだと思うが、共働き世帯では親だけでは難しい面もある。地域の中高年・高齢者が子どもたちに暮らしの技術や風習などを教える機会があるとよいと思う。	1	本ビジョン(案)の「第4章 施策の方向性」の「基本方針5」に、「地域で見守り支える教育・保育」を掲げ、地域全体で子どもを見守り、子育て家庭を支える取組みを進めてまいります。いただいたご意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。
24	保育・教育について	地域での子育て	子育てをした経験から感じることは、子どもを社会の一員として受け入れる心が、社会に育っていないということだ。子育てを社会の問題として訴え、子育て世代が社会とともに頑張れるようにしてもらいたい。子どもは親だけでなく社会といっしょに育てるという意識を、社会が存続するために、社会・親ともに持つように広報活動やシステム設計をしてもらいたい。	1	いただいたご意見のとおり、社会全体で子どもの育ちを支えるといった意識を地域で共有することが重要であると考えております。子ども計画(第2期)においても、重点政策「子どもの生きる力の育み」の一環として、「子どもの育ちを見守り支える地域コミュニティの形成」を掲げており、今後とも子ども・子育てに対する地域の理解や協力の気運を増し、地域で子どもの育ちを見守る意識の醸成に努めてまいります。
25	保育・教育について	地域での子育て	地域ぐるみで子どもが成長していける環境を整えることも大切だ。	1	子どもの健やかな成長のためには、子どもの成長段階に合わせた地域での見守りや多様な関わり・体験ができる機会の創出が不可欠であり、今後とも地域・区民と区との協働・連携による環境整備を進めてまいります。

「(仮称)世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ)」に対するパブリックコメントと区民意見に対する区の考え方

整理番号	分類	中分類	意見の概要	件数	区の考え方
26	保育・教育について	地域での子育て	世田谷区の強みとしては伝統ある自主保育グループが盛んであることと歴史あるプレーパークが市民によって運営されていることが大きい。今の時代、現場の声から有力な情報が得られるので、現場からの情報の吸い上げという点では世田谷区は他県より優位にあるのではないかと思う。今後、プレーパークなどの連携を強めて、子どもの現状の発信や親に向けた何らかの発信を行い、学べる、学び合える場としても機能したら良いと思う。また、自主保育、保育ママを支援する場としても機能してほしい。	1	世田谷区では、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーとして外遊びや自然体験ができるプレーパークを区内4か所に設置するなど、外遊びの環境整備に取り組んできました。世田谷区の乳幼児期における教育・保育を一層充実させるためには、幼稚園・保育所等のみならず、小学校、地域など区全体が共有し、連携しながら取り組みを進める必要があり、理解促進のための情報発信の場づくりも、大切だと考えております。いただいたご意見につきましては、今後の施策の参考にさせていただきます。
27	保育・教育について	親のサポート	保育園に入れた親もそうでない親も、互いにゆるやかにつながれる仕組みがあるとよい。	1	子育て中の親子や妊娠中の方が気軽につどい交流できる場所として、区内にはおでかけひろばや児童館がございます。お子さんが保育園に通われている方もそうでない方も利用ができ、子どもや子育てに詳しいスタッフが常駐し、利用者同士の交流のきっかけづくりや、気軽な相談に対応しております。
28	保育・教育について	親のサポート	待機児童の問題をはじめ、子ども・子育てをめぐる環境は厳しい状態である。また、核家族化や地域のつながりの希薄化による子育てへの不安、孤立感を感じる家庭の増加などから子どもや家庭を支援する新しい支え合いが必要である。	1	子育てに孤立感や負担感を感じている保護者が、気軽に集い、交流し、情報交換できる場としておでかけひろばの拡充を図ってまいります。また、地域の子育て活動団体と子育て家庭や妊娠中の方が交流できる機会として、毎年「世田谷子育てメッセ」を開催しており、多くの方に来場いただいております。昨年7月からは妊娠期面接での子育て利用券の配付も開始し、妊娠期から積極的に地域の子育て支援団体等とつながっていただくためのきっかけづくりにも取り組んでおります。地域の中の支え合い活動として、ファミリー・サポート・センター事業を平成27年度から実施しておりますが、さらに、多様な預りのニーズに応えるため運営体制の強化を図ってまいります。
29	保育・教育について	保育環境の整備	子どもがのびのびできるかどうかは、子どもをみる大人の対応によるものが大きい。子どもをどうするか、という視点ではなく、見ている側、つまり受け皿となる保育園の質、保育士の質、そして保護者が二人いるかどうか、みてる親族が多いかどうかという点が重要だと考える。教育は、それが充足してからだ。	1	いただいたご意見については、今後の施策の参考にさせていただきます。
30	保育・教育について	家庭教育支援	保育園を作る手間・費用を考えると、働く母親を増やすのではなく、3才くらいまでは家庭で子育てをする親を増やした方が効率的だと思う。家庭での育児を推進するために、お腹に子どもがいる時からの母親教育や生まれてからの親子への支援を繰り返していけば、より良い子どもが育ち、社会も良くなると思う。そのようなプロジェクトがあれば手伝いたい。	1	未就学児の子育て家庭においては、3世代家庭が少なく、核家族化が進んでいます。地域の絆の希薄化や、家庭の養育力の低下が指摘される中、家庭教育への支援や、子育て家庭を支える取り組みが必要と考えています。いただいたご意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。

「(仮称)世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ)」に対するパブリックコメントと区民意見に対する区の考え方

整理番号	分類	中分類	意見の概要	件数	区の考え方
31	保育・教育について	愛着の形成	乳幼児期の最も重視されるべきものは愛着の形成であってその他は、二次的なものである。愛着の形成が上手くできないとその後の育ちや生活に多大な影響をもたらすというデータもある。日本全体を見据えた長期視点と将来世代への責任を持ってポピュリズム的行政から脱却し、また、大人の目線ではなく、乳幼児が親と一定以上の密着をする期間を確保するという子どもの視点に立ったことをすべきではないかと思う。それは人口が増加し続けている世田谷区だからこそできる事のように思う。	1	乳幼児期は、心身の発育・発達が著しく、人格の基礎が形成される時期です。特に乳児期において、子どもが示す様々な行動や欲求を、大人が認め、適切に応えていくことにより、人に対する信頼感や、情緒的な絆が生まれ、愛着関係へと発展していきます。この基本的信頼感が、子どもの育ちにとって非常に大事なものだと考えております。いただいたご意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。
32	保育・教育について	愛着の形成	乳幼児と母親とのスキンシップ・育みが最も大切なものなので、その点については、行政も母親も認識してもらいたい。	1	乳幼児期は、心身の発育・発達が著しく、人格の基礎が形成される時期です。特に乳児期において、子どもが示す様々な行動や欲求を、大人が認め、適切に応えていくことにより、人に対する信頼感や、情緒的な絆が生まれ、愛着関係へと発展していきます。この基本的信頼感が、子どもの育ちにとって非常に大事なものだと考えております。いただいたご意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。
33	保育・教育について	愛着の形成	女性が外で働くことには反対しないが、幼児教育について本気で考えるのであれば、子どものそばに母親がいることが一番だ。母親に代わる存在はない。	1	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
34	保育・教育について	その他	将来の東京を担う子どもを育てるためには幼少期からの教育が必要なので、この点に配慮して計画策定を進めてほしい。	1	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
35	推進体制	区民との連携	世田谷区には学者や芸術家、教育者が多く住んでいるので、そのような方を掘り起こし、つながり、アドバイスなどをもらえるとよい。世田谷区は人材豊かな区なので活かしてもらいたい。	1	本ビジョン(案)の「第4章 取組みの方向性」として、「地域で見守り支える教育・保育」という項目を設けています。地域全体で子どもを見守り、子育て家庭を支える取組を進めるためには、地域の人材や地域資源を活用するなど、地域との連携を強めることが必要だと考えています。いただいたご意見を参考にし、教育委員会と区長部局が連携し、具体的な方策を検討してまいります。

「(仮称)世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ)」に対するパブリックコメントと区民意見に対する区の考え方

整理番号	分類	中分類	意見の概要	件数	区の考え方
36	推進体制	その他	「家庭や地域の子育て力の低下に対応して、次世代を担う子育て家庭を社会全体で支援」「家族・地域のきずなの再生や社会全体の意識改革を図るための国民運動の推進」「妊娠・出産から高校・大学生期に至るまでの年齢進行ごとの子育て支援」「働き方の見直しによる仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現」などこれまで課題としてあげられている各種の課題に応じた様々な少子化対策を行うべきだ。	1	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
37	幼児教育センター	設置について	総合教育センターと乳幼児教育支援センターの2つの施設をつくるのではなく、1つの施設に両方の機能を持たせることができると思う。	1	(仮称)世田谷区教育総合センターの中の機能として、乳幼児教育支援センターを整備いたします。施設面では、他の機能と共有を図ってまいります。教育総合センターは、平成33年度の開設を予定しており、今後、開設までの間に教育委員会事務局内の組織の再編を行ってまいります。効率的・効果的な組織運営を検討してまいります。
38	保育施設	保育施設の確保	保育施設が十分でないので、学校の空き施設を活用してもらいたい。少子化の影響で学校施設には余裕があると思う。保育施設を新設するよりもお金がかからないので、節約される分を保育士の給与に充ててはどうか。	1	保育待機児童の解消に向け、区有地をはじめとして国有地や公有地、民有地も含め、あらゆる手法により保育施設整備を進めているところです。引き続き、保育施設整備に全力で取り組んでまいります。
39	保育施設	保育施設の確保	世田谷区は待機児童が多いので、保育園建設を進めてもらいたい。	1	保育待機児童の解消に向け、引き続き保育施設整備に全力で取り組んでまいります。
40	保育施設	保育施設の確保	孫が世田谷区内の保育園には入所できなかったため、子ども世帯は他区に住み、他区の保育園に通っている。子育てをサポートするために自分が他区まで通うことがあるのは、大変な負担である。世田谷区も保育行政をがんばってもらいたい。	1	保育待機児童の解消に向け、区有地をはじめとして国有地や公有地、民有地も含め、あらゆる手法により保育施設整備を進めているところです。引き続き、保育施設整備に全力で取り組んでまいります。
41	保育施設	保育施設の確保	現在は保育所不足が課題となっているが、数年後には学童が不足するのではないか。今の段階から検討してもらいたい。	1	学童クラブにつきましては、定員を設けていないこともあり、不足することはありません。現状では児童数の増加に伴い活動スペースの不足が課題となっておりますが、学校と連携し確保に努めております。今後、さらに児童数が増加する学校につきましては、関係所管と連携し方策を検討しております。

「(仮称)世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ)」に対するパブリックコメントと区民意見に対する区の考え方

整理番号	分類	中分類	意見の概要	件数	区の考え方
42	保育施設	保育施設の確保	住んでいる地区によっては保育園に通わせにくいこともある。また、入園できたとしても、その園が3歳までしか預からないところであれば、幼稚園か別の保育園に入りなおさないといけない。共働き世帯だと延長保育や夏休みの対応してくれる幼稚園でないと預けられない。このような現実を踏まえ、どの子どもも必ずよい環境で保育・教育が受けられると約束してもらいたい。	1	地域ごとの保育需要等を踏まえ、保育待機児童の解消に向け、計画的に保育施設の整備を進めてまいります。
43	保育施設	保育施設の確保	世田谷区は保育施設が少なく、地域に偏りがある。現在ある園や職員に対して配慮するとともに、保育施設の地域的な偏りを解消する必要があると思う。保育施設が不足するなかで、良質な園が存続できるような取組を世田谷区には期待したい。	1	地域ごとの保育需要等を踏まえ、保育待機児童の解消に向け、計画的に保育施設の整備を進めてまいります。
44	保育施設	保育施設の確保	幼稚園、保育所、認定こども園を増やしてほしい。	1	区立幼稚園については、「区立幼稚園用途転換等計画(平成26年8月)」に基づき、幼保一体化の推進を基本に、保育待機児童対応の観点からも、認定こども園等へ用途転換することとしています。また、認可保育園や認定こども園などの整備を進め、保育待機児童の解消に全力で取り組んでまいります。
45	保育施設	保育施設の確保	保育園を建設することについて住民に理解を求めることが重要だ。	2	保育施設の整備にあたっては、住民の方々に対して丁寧に説明し、その必要性についてご理解いただくことが重要であると考えております。引き続き、丁寧な説明を行いながら、保育待機児童の解消に向けて取り組んでまいります。
46	保育施設	保育施設の確保	保育士になりたい人に働く場所を与えるために、その環境を整えるのは行政にしかできない。近隣住民の理解を得るために、老人ホームに保育施設を併設してはどうかと思う。老人にとっては寂しさを和らげることができるだろうし、子どもも優しさや思いやりなどの態度を身につけることができるのではないかと思う。	1	現在も保育施設と高齢者施設との併設を進めているケースがありますが、今後も様々な手法により、子どもや高齢者、地域住民の方々には良好な環境を確保できるよう留意しながら保育施設整備を進めてまいります。
47	保育施設	保育施設の確保	待機児童問題や保育士・介護士不足問題の解決のために、老人ホームと保育所を融合したような施設を設置できないかと思う。施設としての認可基準や資格要件もちがうため、難しいかもしれないが待機児童問題や保育士・介護士不足問題の解決の一助になり、お年寄りや子ども達にとってはお互い触れ合うことが刺激になると思う。園児の老人ホーム訪問は実施している園もある。また、老人ホームでお昼や夕方に児童に低価格で食事を提供しているところもあるという。少子高齢化の時代だから「共生」を進めていく考え方も必要だと思う。	1	現在も保育施設と高齢者施設との併設を進めているケースがありますが、今後も様々な手法により、子どもや高齢者、地域住民の方々には良好な環境を確保できるよう留意しながら保育施設整備を進めてまいります。
48	保育施設	保育施設の増設	子どもの属する施設によって親の就労形態の選択肢が制限されることは望ましくなく、また、保育園でも幼稚園のような教育的要素を取り入れてほしいと考えている親は多いと思う。そのため幼稚園の保育への参入を促す施策があれば、それを実行するなどして、認定こども園を増やしてほしい。	1	地域ごとの保育需要等を踏まえ、保育待機児童の解消に向けて、認定こども園も含めた保育施設の整備を計画的に進めてまいります。

「(仮称)世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ)」に対するパブリックコメントと区民意見に対する区の考え方

整理番号	分類	中分類	意見の概要	件数	区の考え方
49	保育施設	保育環境の整備	区立幼稚園を認定こども園に転換する計画が示され、5園のみが区立として残る予定とされている。また、移行した区立認定こども園は保育枠に対するニーズが現状と全くあっていない。区立幼稚園が不要とされているわけではないので、セーフティネットとしての役割を継続してほしい。	1	「区立幼稚園用途転換等計画(平成26年8月)」に基づき、区立幼稚園を認定こども園へ用途転換することとしています。 区立認定こども園への移行にあたっては、園児募集停止を伴わないことを基本とし、在園中に用途転換が行われる幼稚園や保育園入園予定の児童にも配慮し、保護者への説明などを通し、ご理解を得ていきたいと考えています。 私立認定こども園への移行については、事業者が施設を整備することにより移行期間において閉園を伴うことから、幼稚園の充足率や保育待機児の状況等も踏まえ、移行年度を決めてまいります。
50	保育施設	保育環境の整備	保育園から自宅まで安全に帰宅できるような道路整備を行ってほしい。安全に園から帰ることができるだけでも、明るい世間を見せてあげられる。	1	いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
51	保育施設	一時保育	保育園に入れない子どもがいる家庭では、ほっとステイのニーズが多くなっている。しかし、電話でしか予約ができず不便である。インターネットの活用も含め、改善してほしい。	2	理由を問わないお子さまの一時預かり「ほっとステイ」については、おでかけひろば内でのほっとステイ実施施設を増やすなど、今後も定員枠の拡大に努めてまいります。 インターネットを活用した利用予約のご提案につきましては、今後の施策の参考とさせていただきます。
52	保育人材	人材確保	待機児童の問題を解決するためには保育士の数を増やすことが挙げられる。免許・資格を持っている人で離職している元・保育士に対して復職のサポートをする機能や、短時間から働くことができる等柔軟な仕組みがあるとよい。	2	区では、保育人材を確保するため、保育人材情報ポータルサイトの運営や就職相談会の開催、大学等との連携など、様々な取組を行っています。また、各保育園の創意工夫において柔軟な勤務形態を取り入れるなどの取組も行っています。今後とも、様々な機会を捉えながら、保育士資格保有者へのアプローチを検討していきます。
53	保育人材	人材確保	保育所を増設しても人材が足りない状況にあると聞く。若い保育士の負担を軽減するため、子育て経験のある年配の女性を「保育助手」としてパート採用してはどうか。資格がなくても、子育ての経験は活かせるはずだ。保育士と保育助手でシフトを組む体制を制度として取り入れれば待機児童ゼロも目指せるのではないか。	1	各保育園において、育児経験のある方などを「保育補助」として非常勤や臨時職員として雇用しています。 各施設での保育士の配置人数は、国の基準で定められており、保育の質の確保のためにも基準を守って保育士を配置することが必要と考えております。 今後とも、育児経験者等の「保育補助」の方の力を借りながら、保育園運営に取り組んでまいります。
54	その他	その他	ビジョンに書かれていることはよいが、そのために行政組織を無暗に拡大することなく、組織の最適化を図ってほしい。	1	ビジョンに基づく施策の推進にあたっては、教育委員会と区長部局の子ども・若者部等と連携し、いただいたご意見も踏まえながら、効率的に取組みを進めてまいります。

「(仮称)世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ)」に対するパブリックコメントと区民意見に対する区の考え方

整理番号	分類	中分類	意見の概要	件数	区の考え方
55	その他	その他	保育園の入園にあたっては、長期間世田谷区に住み、長く納税していることが有利になる点数制を検討いただきたい。	1	入園の選考にあたっては、同一指数世帯の場合に、世田谷区に住民登録し、引き続き居住している期間が長い世帯を優先する条件を設けております。利用調整については、区民の皆様の声や社会情勢の変化により、今後も引き続き慎重に検討を重ねていかなければならないと考えております。
56	その他	その他	先日、小学校で「どうして早寝早起きが大切なのか」を解剖生理学の観点から噛み砕いて話をしたところ、担任の先生が早寝早起きをするように言っても聞かなかった子どもが早寝早起きをするようになったという。理由がわかるようになると子どもは素直に聞き入れることができるようになるのではないかと思う。こうした生活習慣がなぜ大事ななどを授業に取り入れていけると良いと思う。	1	「世田谷3快プログラム」は、単に運動能力の向上だけでなく、自ら健康的な生活を営む態度をはぐくみ、心も体もたくましく、意欲・気力のみなげる子どもの育成をめざすものです。そのため、世田谷区の児童・生徒が「夜、ぐっすり寝て、よく食べ、よく運動し、また、夜、ぐっすり寝る。」ことができるように、「体力向上」、「健康教育」、「地域との連携」、「幼児教育」の各分野で様々な取組を進めてきました。「健康教育」の取組の一環として、区立小・中学校の児童・生徒、保護者の、教員を対象とし、教育委員会と区内大学が協力し、子どもたちの健康や生活習慣等に関するアンケート調査を実施しました。今後、調査結果を集計分析し、子どもの体力向上・健康推進に向けて、より効果的な取組について学校へ助言してまいります。